学校で『金融商品の選び方』をどう教えるか？

2024年8月23日

金融広報中央委員会事務局
竹内俊久　toshihisa.takeuchi@boj.or.jp

【高校】

（家庭科）

預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット、デメリット）、資産形成の視点にも触れる

（公民科～公共）様々な金融商品を活用した資産形成にともなうリスクとリターンなどについて理解できるようにする。

（公民科～政治・経済）金融の働きと仕組みについて理解を深める。

【中学校】

（技術・家庭科）　金銭の管理

幸せに“生きる”ために、お金に関して、どんな力が必要？

お金が不足しない	お金を上手に使える
• お金の価値を守れる（インフレ）、うまく増やせる（分散、ポートフォリオ管理） • お金を下手に減らさない（詐欺、リスク管理） • お金をためる • お金を得る（≒働く）	• 多くの人が「幸せ」になれるように使う（持続可能な社会） • 自分や周囲の人が「幸せ」になれるように使う • ムダ使いをしない

（参考）金融経済教育

【金融経済教育推進機構の目的】

適切な金融サービスの利用等に資する
金融又は経済に関する知識を習得し、
これを活用する能力の育成を図るための
教授及び指導（金融経済教育）
を推進すること

第一段階　教科書を使う

【指導要領】 お金に関する記述が充実

↓

【教科書】解説が充実。良い「題材」が多い。

↓

（例）「題材」を扱うとき、「お金の観点」からの説明を丁寧に（従来の3割増しのイメージで）行っていただく＋楽しく

＋生徒に質問してもらう/意見を言ってもらう

「良い題材」 ～小学校の例

- 「友だちのしょうこ」
- 「お母さんのせいきゅう書」
  （「ブラッドレーの請求書」）
- 「おこづかい」

  （3匹の子ぶた＝トンタ、ブンタ、ノンタ）
- 「うわばきぶくろ」

「お金」を話題にする

- 絵本
- ホームルーム
- 総合的な学習（探究）
- 学校行事（栽培、手作り、バザーで売る）
- 修学旅行
- 外部講師の講演　～お金の話題も
- 最近の出来事　　～お金との関係

第二段階 ～できれば

金融経済教育推進機構の教材を
使っていただく

—「お金」の角度から説明
—生徒が、各科目で学んだ知識の
「点」と「点」がつながる

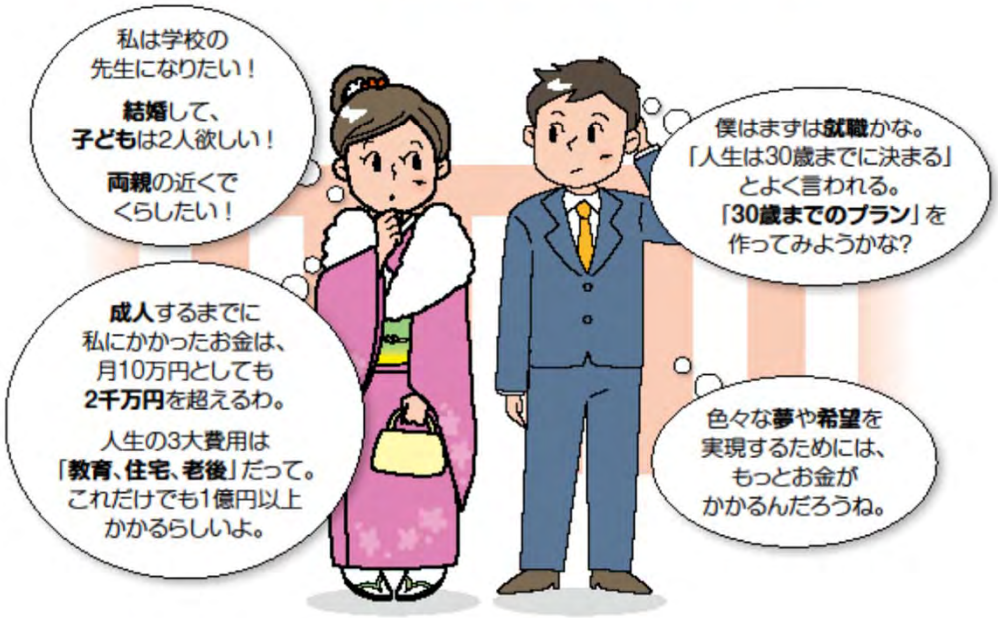
おこづかい帳

知るぽると
www.shiruporuto.jp
のおこづかいきろく
おかね師匠と
おかねについて
考えよう！
あいているところに
自分の名前・よび名をかいて
自分だけの
「おこづかいきろく」
にしよう。

新成人のための
人生とお金の知恵

出発点として

人生のデザインを描きましょう！



金融広報中央委員会
（事務局：日本銀行情報サービス局内）

内容

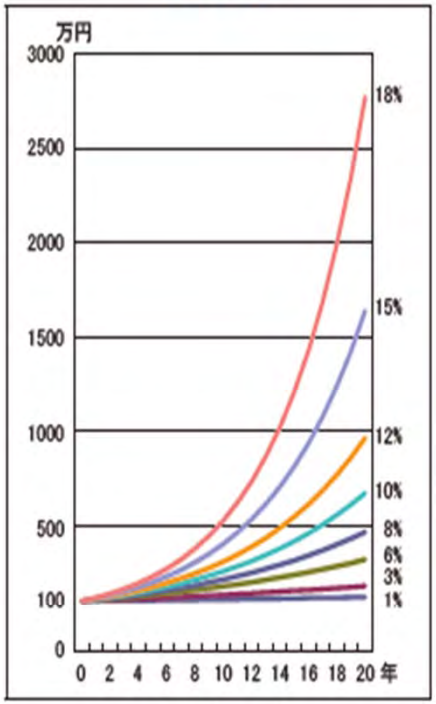
出発点＝人生のデザインを描きましょう！

1. 「支出＜収入」にしましょう！
2. 「複利の力」を知りましょう！
3. 「お金を増やしたい」とき
4. 「金融商品」を選ぶときの注意点（新）
5. 「お金を借りる」前に
6. リスクを管理しましょう！

「複利の力」を知りましょう！

複利（金融の本質）の理解 ← かけ算（小学校）

複利の力



金利 1%～18%

・お金を「運用する」ときだけではなく、「借りる」ときも複利によって金額が増えることに注意！

● お金を運用するとき、借りるとき、「複利の力」を意識しましょう。

「72の法則」を使いましょう！

・お金が2倍になる年数、がすぐにわかる便利な算式です。

・「72 ÷金利」を計算すれば、元のお金が2倍になる年数が出てきます（概算です）。

72 ÷金利 ≒ お金が2倍になる年数

＊ここでの「金利」は複利です（1年ごとに利子にも利子がつく、と想定）

これで
あなたも
ひとり立ち
自立のためのWORKBOOK
最優秀
知るぽると
金融広報中央委員会
The Central Council for Financial Services Information

ワーク12

人生にかかるお金、資産形成の視点

人生にかかるお金について、将来の生活を思い浮かべながら考えてみましょう。
人生全体で「支出<収入」にするには、どうしたらいいでしょうか。
将来に備えて資産を形成していく、との視点からも考えてみましょう。

その1 人生にかかるお金はいくら？ ～生涯の支出～

人生で、どのくらいのお金がかかると思いますか？
・自分の将来の生活を思い浮かべながら考えてください。金額を書いてみてください。
・先生から考え方の説明を受けたうえで、感想をグループ内で話し合ってください。

人生にかかるお金の予想額 ➡ 約［　　］円

感想

その2 人生で得られるお金は？ ～生涯の収入～

人生で、どのくらいの収入が得られると思いますか？
・自分の将来の生活を思い浮かべながら考えてください。金額を書いてみてください。
・先生から考え方の説明を受けたうえで、感想をグループ内で話し合ってください。

人生で得られるお金の予想額 ➡ 約［　　］円

感想

その3 人生全体で「支出<収入」にするには？ ～生涯の収支～

人生全体で「支出<収入」にするには、どうしたらよいと思いますか？
・良いと思う方法を、書いてみてください。また、グループ内で話し合ってみてください。
・先生から考え方の説明を受けたうえで、感想を書いてください。

人生全体で「支出<収入」にするために、良いと思う方法

感想

その4 お金を「ためたい」とき、「増やしたい」とき

お金を「ためたい」とき、どうすればうまくいきそうだと思いますか？
お金を「増やしたい」とき、どうすればうまくいきそうだと思いますか？

お金を「ためたい」とき、うまくいきそうだと思う方法

お金を「増やしたい」とき、うまくいきそうだと思う方法

その5 金融商品の選び方、資産形成の視点

将来、金融商品をどのように選んでいこうと思いますか？ 金融商品の特徴について、インターネットなどで調べてみたうえで、自分の考えを書いてください。ほかの人の意見も聞いてみましょう。

金融商品の特徴

・預貯金

・株式

・債券

・投資信託

・うち、インデックスファンド

NISA、IDeCo

金融商品の選び方についての私の考え　ヒント　安全性　収益性　ライフプラン　長期　資産形成

【金融経済教育の典型的なワーク】

「ワーク12　人生にかかるお金、資産形成の視点」

その1　人生にかかるお金はいくら？

その2　人生で得られるお金は？

その3　人生全体で「支出＜収入」にするには？

その4　お金を「ためたい」とき、「増やしたい」とき

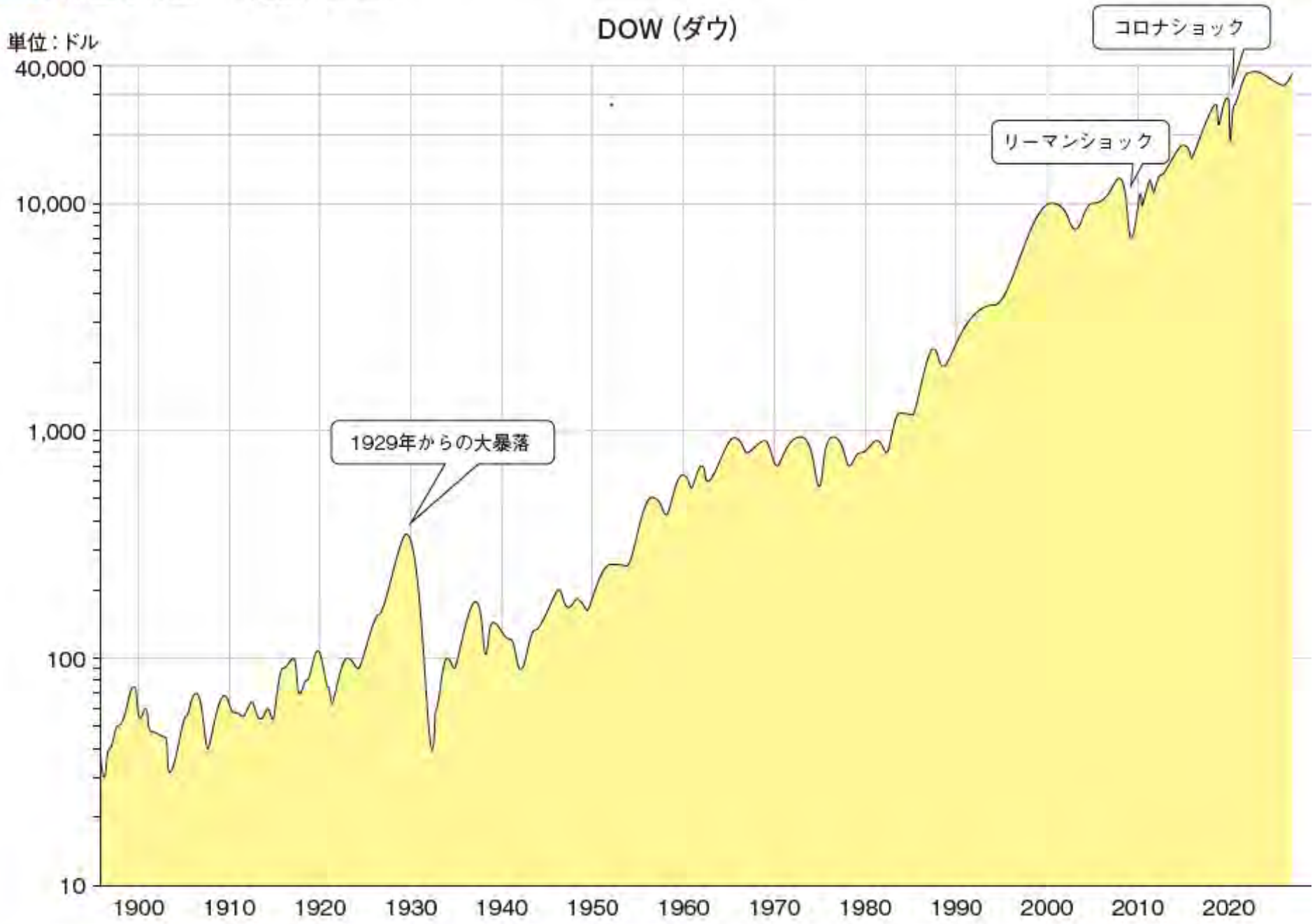
その5　**金融商品の選び方、資産形成の視点**

「指導書」＝教員の説明の例＋資料

説明の例

- 「期間×金額」で計算してみる　*←新しい脳を使う*
- 天引き貯金　　*←“意思の力”を補う*
- 天引き投資　　*←“意思の力”を補う*
- 長期・分散・積立投資*←ふつうの人に向く。これで十分。*
- 金融商品の長所・短所
  - ―預貯金、債券、投資信託、インデックスファンド
  - ―新NISA（2024年～）　iDeCo
- 預貯金と株式を組み合わせると（安全性、収益性）

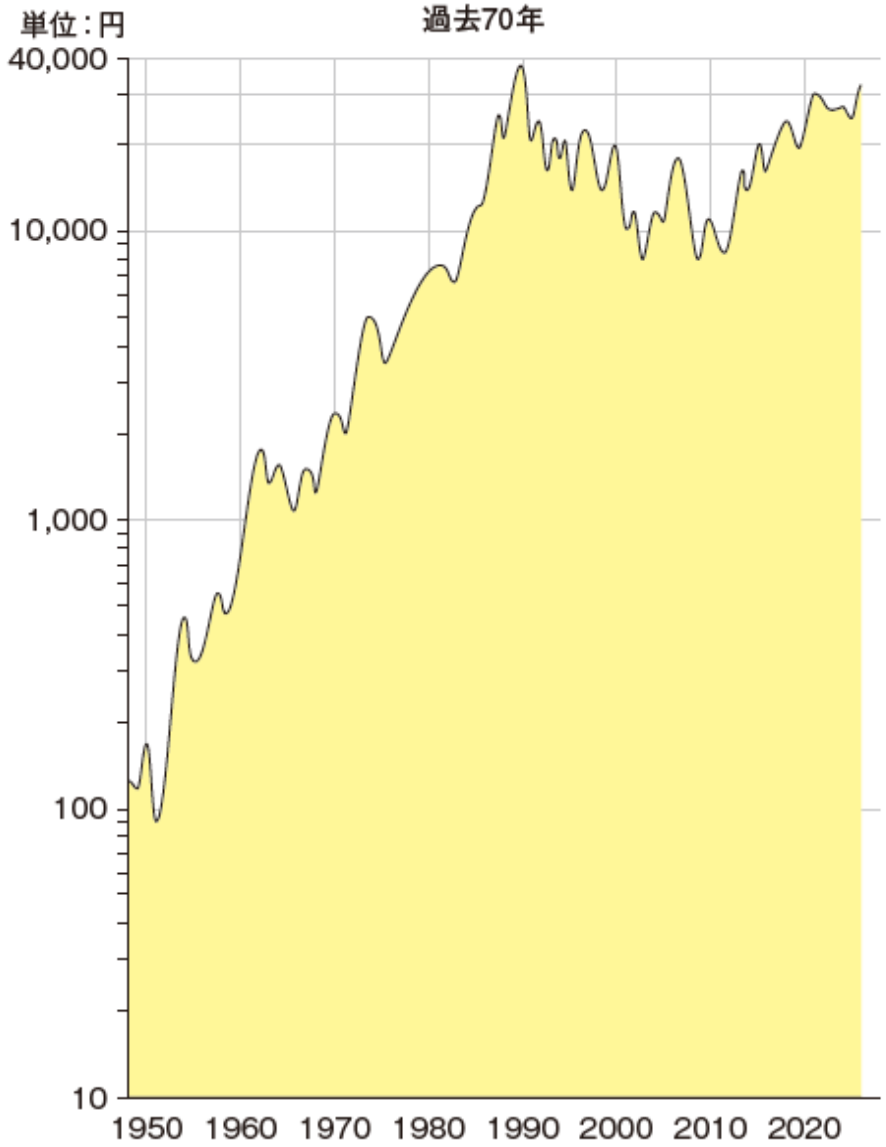
資料11 米国の株価　～過去120年

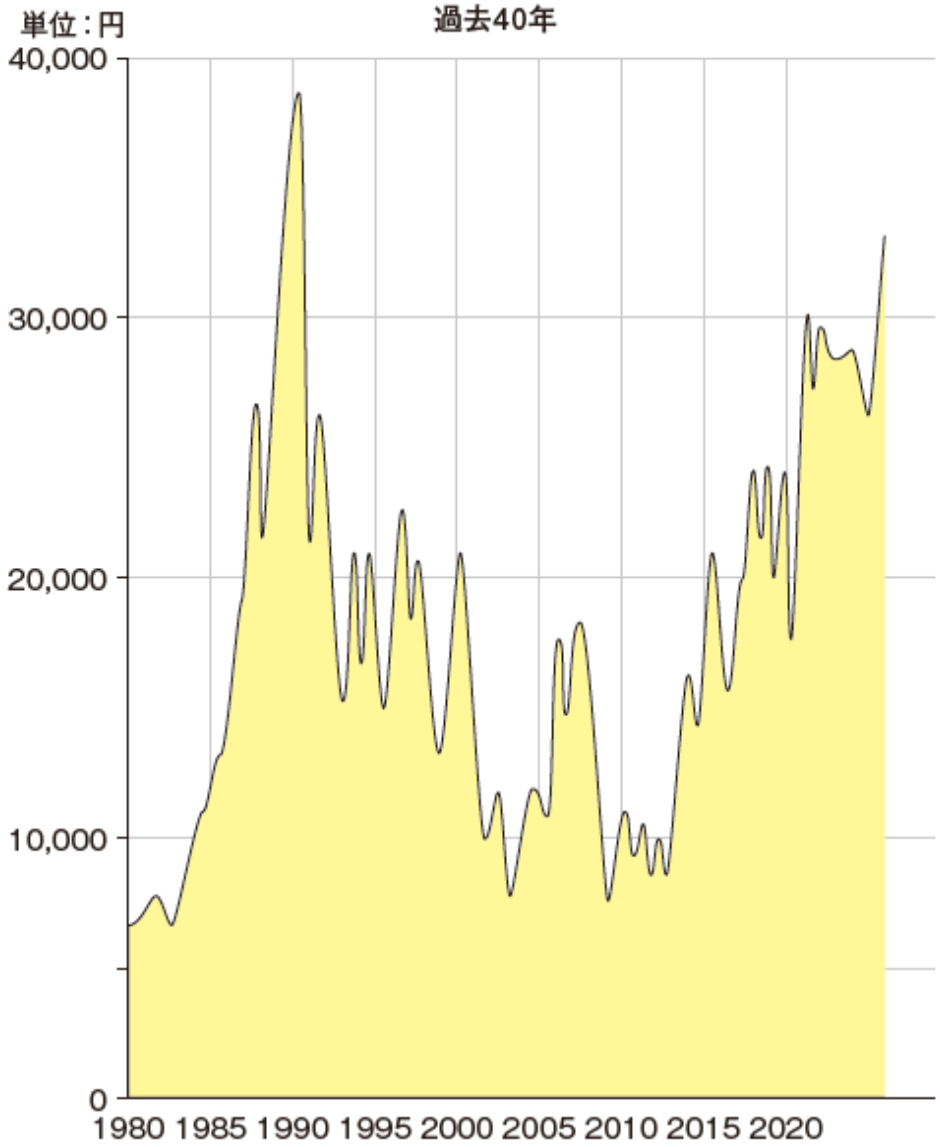


（出所）DOW©S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス社。同社から利用許諾いただいたデータに基づき、金融広報中央委員会にて作成。

資料12 日本の株価

日経平均





（出所）日経平均株価©日本経済新聞社。同社の指数公式サイト『日経平均プロフィル』（https://indexes.nikkei.co.jp/nkave）の公表データに基づき、金融広報中央委員会にて作成。

資料6 預貯金の長所と短所

長　所	短　所
お金が**減らない**	お金が**増えない**
デフレに強い＊	インフレに弱いことが多い＊＊

資料7 株式の長所と短所（個別の株式ではなく、株式全体の特徴）

長　所	短　所
お金が長期的には**増える可能性が高まる**	お金が短期的には**減る可能性も高まる**
インフレに比較的強い＊	デフレに比較的弱い＊＊

資料8 預貯金と株式の組み合わせ

	株式のみ	預貯金と株式の組み合わせ		預貯金のみ
		株式の割合が高め	株式の割合が低め	
安全性	×	△	○	◎
	減る可能性が**高くなる**	減る可能性が**高め**	減る可能性が**低め**	**減らない**
収益性	◎	○	△	×
	増える可能性が**高くなる**	増える可能性が**高め**	増える可能性が**低め**	**増えない**

（注）ここでの「株式」は、個別株式ではなく、**インデックスファンド**にする方が、減る可能性が小さくなります。

資料9 投資信託の長所と短所

長 所	短 所
少額から買える	コストが高いものがある*
分散投資を行いやすい	誤解も多い**

資料9 投資信託の長所と短所

長 所	短 所
少額から買える	コストが高いものがある*
分散投資を行いやすい	誤解も多い**

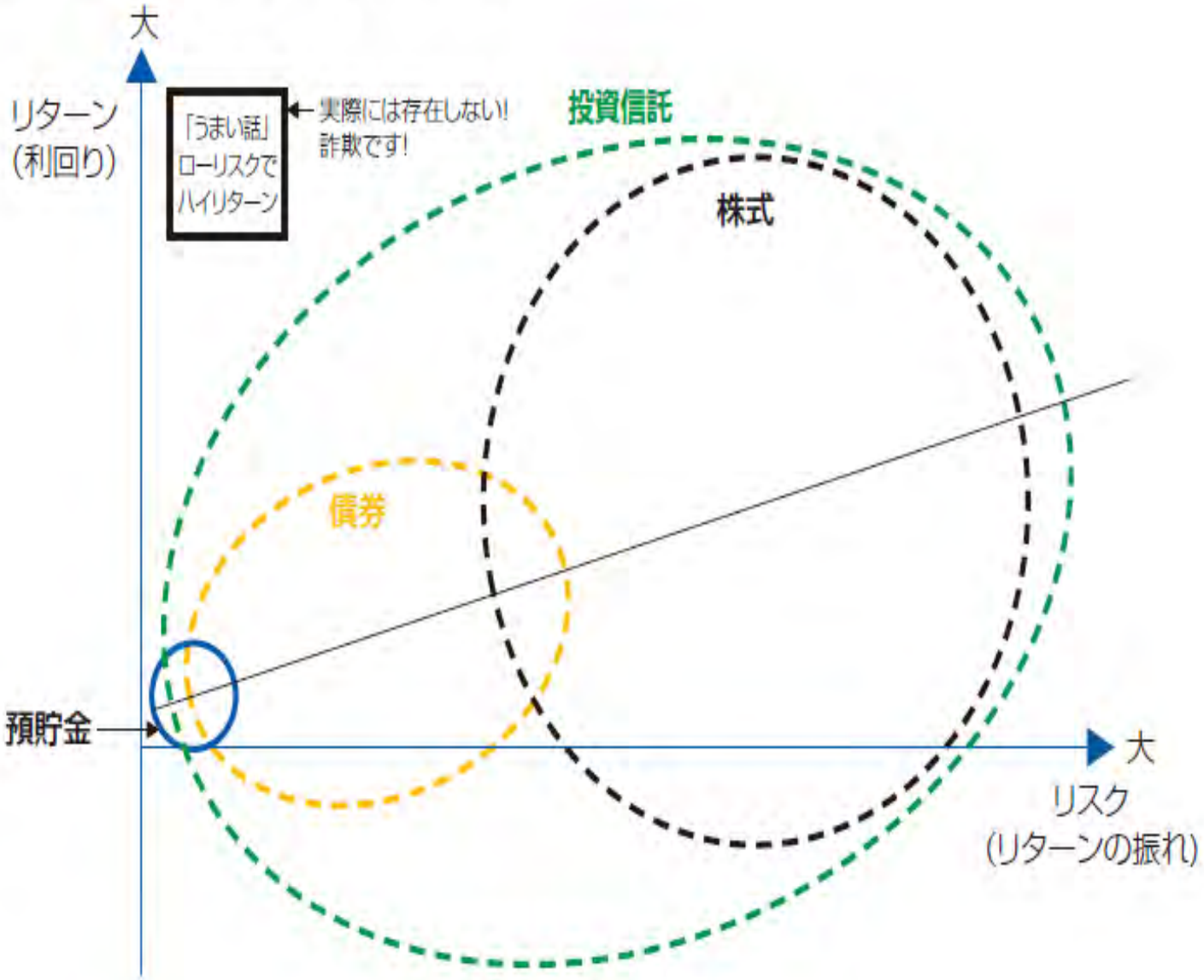
誤解

- 安全性が高い
- 分散投資している
- プロ（専門家）が運用しているので、運用成果が高い

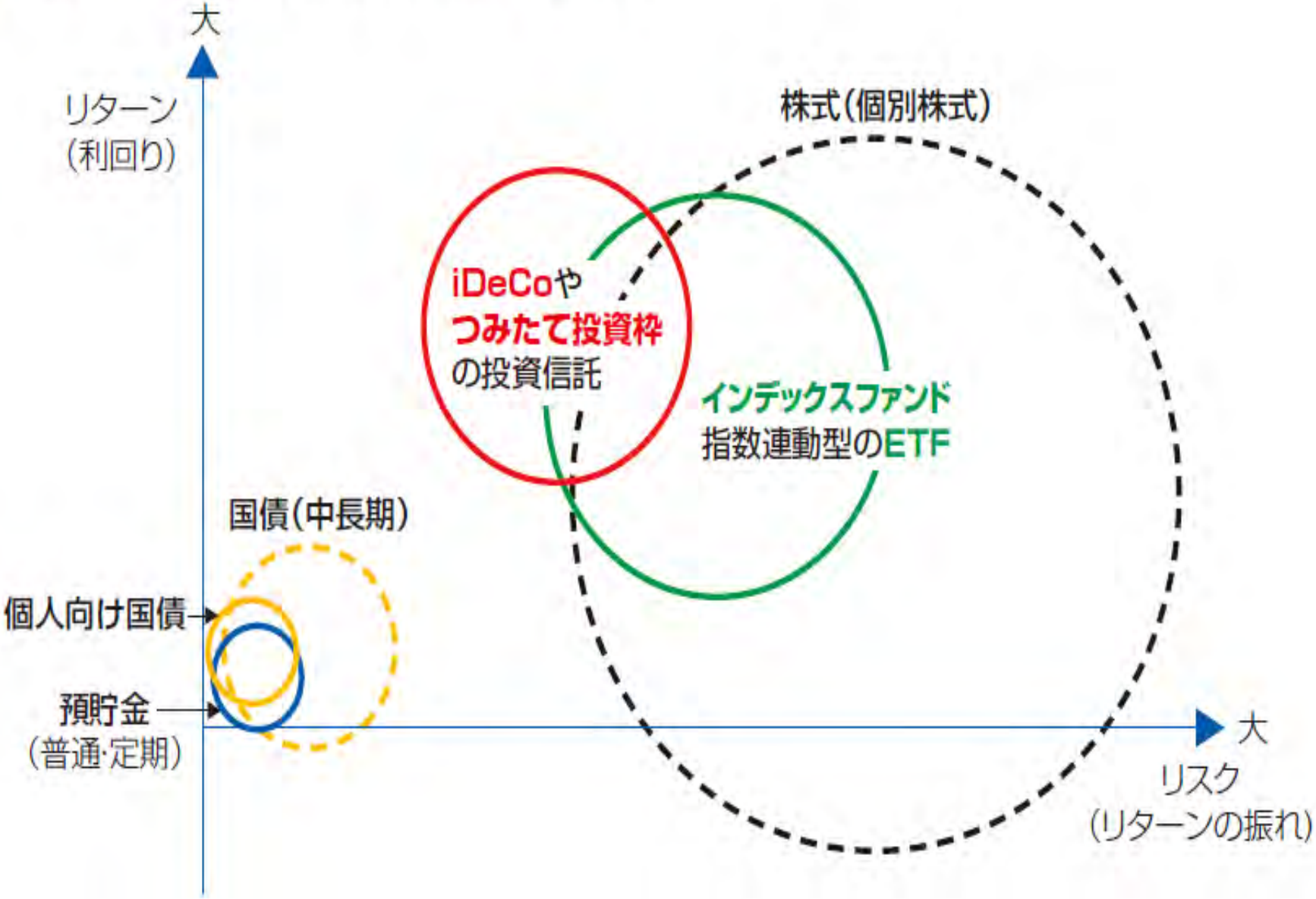
資料10 インデックスファンドの長所と短所

長所	**非常に多くの銘柄**に**分散投資**できる。**コストが非常に安いものも多い**
	個別株投資に比べて、**減る可能性**が小さい。**時間**をかけなくて済む（銘柄調査などの時間が不要）
	アクティブファンドに比べて、**長期的には運用成果が良い例が多い**
短所	個別株投資に魅力を感じる人にとって面白みが少ない。企業を応援するような気持ちで投資できない
	個別株への集中投資がうまくいった場合に比べれば、リターンは小さい（減る可能性が小さいことの裏返し）
	市場全体がショックなどにより下落した場合、防衛的な個別株（日用品・生活関連銘柄など）に比べて下落幅が大きくなりやすい

資料14 金融商品のリスクとリターン（イメージ図）



資料15 金融商品のリスクとリターン（より詳しく見ると）



資料13 新しいNISAとiDeCo　～個人の資産形成のための税優遇制度～

（2024年1月末時点）

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">新しいＮＩＳＡ（2024年～）
～少額投資非課税制度</th><th>ｉＤｅＣｏ（イデコ）
～個人型確定拠出年金制度</th></tr>
<tr><td>税の優遇</td><td colspan="2">運用益が非課税になる</td><td>運用益が非課税になる
毎年の所得税や住民税が減る
受取時に支払う税金が減る</td></tr>
<tr><td>対象層</td><td colspan="2">18歳以上</td><td>20歳以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">年間投資枠</td><td>つみたて投資枠</td><td>成長投資枠</td><td rowspan="2">14.4万円～81.6万円
（働き方によって金額に違いがある）</td></tr>
<tr><td>120万円</td><td>240万円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">非課税
保有限度額</td><td colspan="2">1,800万円[1]（再利用が可能[2]）</td><td rowspan="2">―</td></tr>
<tr><td colspan="2">うち1,200万円</td></tr>
<tr><td>対象商品</td><td>長期の積立・分散投資に適した投資信託
（金融庁の基準を満たすもの）</td><td>上場株式・投資信託等
（一部の商品を除く）</td><td>投資信託　保険　定期預金など</td></tr>
<tr><td>買い方</td><td>積立（毎月など）</td><td>自由</td><td>積立（毎月、年1回、年2回など）</td></tr>
<tr><td>受け取り</td><td colspan="2">いつでも自由に引き出せる</td><td>60歳以降に、受け取りを開始する</td></tr>
</table>

1　つみたて投資枠だけで「1,800万円」の限度額を使い切ることもできます。成長投資枠の限度額は1,200万円です。

2　非課税保有限度額は、買付額の残高で管理されます。売却すると、買付残高が減少し、その分の枠を翌年以降に再利用できます。

金融商品の選び方（まとめの例）

- 金融商品を選ぶとき、「目的」を明確にする。
- 「減らしたくない」ときは、「預貯金」が第一。「ためたい」とき、"天引き貯金" が効果的な方法とされる。
- 「増やしたい」ときは、お金の一部を、株式（株式全体）などの "お金が増える可能性が高まる資産" に回す。その割合は、自分の性格や状況に応じて決める。絶対に減らしたくない場合は、ゼロにする。
- 「安全で、利回りが高い商品」はないことを知る。
- 株式に投資する場合、投資対象を分散することにより、減る可能性を小さくすることはできる。ただし、減る可能性は決してゼロにはならない。
- 投資信託の特徴は、中身次第。少額から投資できる。コストにも気をつける。
- インデックスファンドは、幅広く分散投資を行うことができる。コストが非常に安いものも多い。
- NISAやiDeCoを利用すると、税の優遇措置を受けることができるなど、「低コスト」での運用を行いやすい。「長期・積立・分散投資」、「定額投資法」、"天引き投資" といった効果的な方法も利用でき、資産形成に役立てやすい。
- 「損失（不測の事態）に備えたい」との目的の場合、預金と保険が候補になる。民間保険は、社会保険ではカバーされず、預貯金では足りないものについて、必要な額だけ入る（必要以上には入らない）。

資産形成の視点（まとめの例）

- 将来に備えて、また老後働けなくなることに備えて、長期的に資産を形成していく、との視点をもちたい。
- 「支出<収入」にすることが出発点。「働くこと」の効果は大きい。「お金をためること」から資産形成が始まる。
- 金融商品の選び方も、資産形成に大きく影響する。30年～50年といった長期的な視点から、自分に合った方法で、減る可能性を抑えながら実行したい。